

報道関係者 御中

2010年7月15日

株式会社NKB

パブリックアート本部

成田スカイアクセス パブリックアート

2010年7月17日成田スカイアクセスが開業、都心と成田空港が36分で結ばれます。

海外から日本を訪れる人が最初に利用する鉄道駅に、楽しい旅を演出するアート作品を設置したいという思いから、パブリックアートが制作されました。それぞれのテーマに沿って作られたアート作品は、旅の始まり、旅の思い出に彩りを与えてくれます。

株式会社NKBはこれまでに約500点のパブリックアートを制作した経験を生かして、今回の成田スカイアクセスのアート作品の企画・制作を行いました。

成田スカイアクセス アート3作品 (場所—題名—原画作家—素材)

成田空港駅	『動く青い世界地図』	佐野ぬい	ステンドグラス
空港第2ビル駅	『おー日本よ』	吉武研司	陶板レリーフ
成田湯川駅(新設)	『雲上晴朗』	篠原修・南雲勝志	ステンドグラス

※作品の詳細については別紙参照



成田空港駅 『動く青い世界地図』



空港第2ビル駅 『おー日本よ』



成田湯川駅 『雲上晴朗』

*このリリースに関するお問い合わせ先

株式会社NKB パブリックアート本部 山崎・石井、広報担当 大野

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1新国際ビル

TEL : 03-3215-5513 FAX : 03-3215-8970

URL : <http://createjp.com/>

◇(株)NKBのパブリックアート事業について

当社では駅などのパブリックスペース(公共空間)をより豊かなものにするため、ステンドグラスや陶板レリーフなどのパブリックアートの制作を行ってきました。これまでに制作した作品数は全国で約500点にもものぼります。原画・監修を行うのは、平山郁夫、澄川喜一、絹谷幸二など日本を代表する一流の作家たちです。世界でも最高峰の材料を用いて制作されるパブリックアートは、永遠に色褪せることなく、公共空間に潤いを与え社会のより良い環境づくりに貢献しています。



アンティークグラス



アンティークグラス色見本



釉薬見本 ピンク



釉薬見本 トルコブルー



釉薬見本 黄色



釉薬見本 赤

成田空港駅 ステンドグラス作品

『動く青い世界地図』



サイズ
W5.9m × H2.8m

女子美術大学学長を務める佐野ぬい氏が、絵具で表現し続けてきた色“ブルー”を基調にして、原画を描いたステンドグラス作品。原画の“ブルー”をステンドグラスで再現するため、20種以上の青色のアンティークグラスが使用された。また、微妙な色合いやテクスチャーにこだわった赤色のアンティークグラスが、全体に華やかさと賑わいを与え、多くの人が行き交う国際空港の玄関口としてふさわしい作品になっている。

作家のコメント

光のあるステンドグラスは美しい。

絵具で描き続けて来た色彩を、ステンドグラスにして表現する仕事を、専門家の指導のもとにやらせていただきました。

動く青い世界地図が、旅情を誘う多彩な異空間になってくれればと願っています。

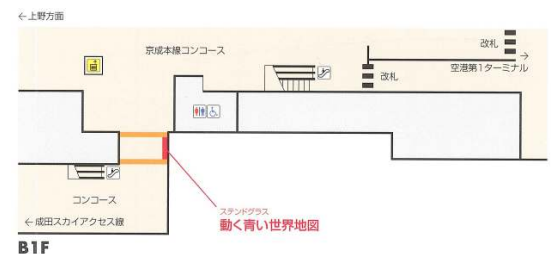
さの 佐野 ぬい

作家紹介

「ブルーという色はどれほど、多くの言いたいことをかくしているのだろうか...。」と語る佐野ぬいの作風は“佐野ぬいブルー”と呼ばれる青を貴重としている。多彩な表情と魅力を持った澄んだ青を画面の核としながら、大胆な筆さばきで都会的で洗練された色彩の調べを奏でる。2007年からは女子美術大学の学長も務め、女流作家としては今最も実力のある作家と言える。

- 1932 青森県に生まれる
- 1955 女子美術大学芸術学部洋画科卒業
- 1957 女流画家協会会員
- 1969 新制作協会会員
- 1986 文化庁優秀作品買い上げ
- 1987 女子美術大学芸術学部教授
- 1993 「安井賞」審査員
- 1994 女子美術大学大学院美術研究科教授
- 2004 第26回損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞
受賞記念「佐野ぬい展」開催
- 2007 女子美術大学学長就任
- 現在 女子美術大学学長

設置場所



空港第2ビル駅 陶板レリーフ作品

『おー日本よ』



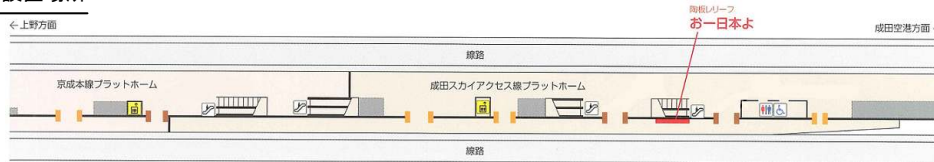
サイズ
W6.0m × H2.8m

空港第2ビル駅には、吉武研司氏による日本を題材にした陶板レリーフが設置されている。コバルトブルーの海に浮かぶ日本列島はカラフルに彩られ、それを取り巻く太陽、月、不死鳥や八百万の神々も力強く表現されている。ディテールにもこだわった本作は、手で触れながら〈発見〉する楽しさにも溢れている。

作家のコメント

時空を超えた 大きな生きもの
人は来て 去り また来る
空・海・山・人の幸に恵まれ 言霊のさきかうまほろば
八百万の神々に守られ 海に浮かぶ宝石 日本よ
大きく翔け 世界のために

設置場所



よしたけ けんじ

吉武 研司

作家紹介

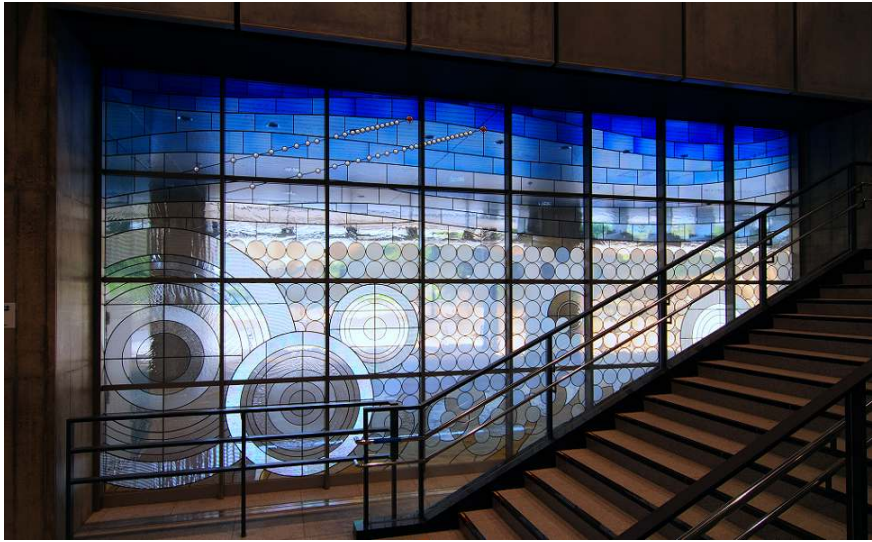
「自分の中のいちばん優しいものが表現でき、それが様々なに伝わってくれればいい。」より根源にあるものの発見と再認識に裏打ちされた吉武研司の作品は、明るい色彩と自由な造形に目を奪われる。画面からは優しさと温かさ、楽しさが伝わってくると同時に原始的でパワフルなエネルギーが感じられる。

- 1948 佐賀県に生まれる
- 1976 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
- 1978 同大学院修了
- 1984 「独立展」独立賞受賞
- 1986 独立展会員推挙
- 1996 洲本市柳学園（兵庫）壁画制作
- 2005 練馬高野台順天堂大学付属病院（東京）壁画制作
- 2008 東京メトロ副都心線北参道駅壁画制作
- 現在 女子美術大学教授、独立美術協会会員、日本美術家連盟会員



成田湯川駅 ステンドグラス作品

『雲上晴朗』(うんじょうせいろう)



サイズ
W8.8m × H4.4m

成田スカイアクセス路線上に新設された成田湯川駅には、天候季節によりその表情を美しく変化させるステンドグラス作品が設置された。印旛沼橋梁の環境設計を手掛けた篠原修氏と、デザイナーの南雲勝志氏によるこの作品は、空の青さと雲を幾何学的に表現しており、色彩あふれる空間を演出している。

作家のコメント

雲天、雨、雪の日でも雲を抜けると、空は常に晴朗である。日常の愁い、悩み、迷いの感情を振り捨てよと言うが如く、空は晴朗である。それがたとえ一刻のことであるにせよ、天の晴朗は我々を勇気づける。
(篠原 修)

設置場所



しのはら おさむ

篠原 修

なぐも かつし

南雲 勝志

作家紹介

篠原修は土木設計家として活躍する一方、分野を超えた専門家を集結する団体として発足させたGSデザイン会議の代表を務め、総合的なまちづくりや空間デザインを実践している。ナグモデザイン事務所代表を務める南雲勝志は、家具・インテリア・景観など、様々な分野のデザインを行っている。二人はこれまでも新日向市駅のプロジェクトなど、トータルデザインを実施したまちづくりで共演している。

・篠原 修

1945 栃木県に生まれる
1968 東京大学工学部卒業
1980 同大学工学博士号取得
1991 東京大学大学院教授就任
2005 GS(グラウンドスケープ)デザイン会議発足
現在 政策研究大学院大学教授、GSデザイン会議代表

・南雲勝志

1956 新潟県に生まれる
1979 東京造形大学室内建築科卒業
1987 南雲デザイン事務所設立
専門 プロダクト景観デザイン
現在 Gmark審査委員、土木学会デザイン賞審査員

